

Title	近衛家第22代当主・近衛家久を中心とする、江戸中期の和歌及び文化史の研究
Sub Title	Research on waka and cultural history of the mid-Edo period, focusing on Konoe lehisa, the 22nd head of the Konoe family.
Author	緑川, 明憲(Midorikawa, Akinori)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2024
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2023.)
JaLC DOI	
Abstract	コロナ禍により長い中断を余儀なくされていたが、約4年ぶりに公益財団法人陽明文庫での現地調査が可能となった。調査再開によって、陽明文庫の所蔵にかかる未公開資料、近衛家久自筆の和歌資料『家久公御詠草』を1点ずつ取り上げて撮影、及び翻刻を行った。今年度は主に享保前期（1720年代）に詠まれた和歌群であったが、霊元院（天皇）からの添削が数多く含まれていることが確認できた。従来の研究では、霊元院と近衛家3代（基熙・家熙・家久）とは政治的に対立しており、従って、和歌の添削を通じた師弟関係も存在しないと考えられていたが、今回の調査で少なくとも家久に関しては霊元院と和歌の師弟関係があり、院主宰の朝廷歌壇との結びつきも一定程度認められた。一方で、家熙の藤原時代風の書風（いわゆる「豫楽院流」）の家久への継承問題に関しては、全部の資料に目を通していないため即断はできないものの、調査の範囲では、恐らくは公的（ないし外部の人間の目に触れ得る）書に関しては父親（家熙）と極めて近似した書を書いていた一方、人目に触れないメモ・備忘録的な性格を持つ書に関しては、全く独自の書風を用いているらしいことが判明した。つまり、豫楽院流を継承してはいるが、それを日常的に用いていたわけではなく、時と場合によって書き分けていたという仮説を構築することができた。本年度の調査は先方の都合や自身のコロナ罹患もあって、毎月欠かさず陽明文庫へお邪魔することが叶わなかったのは非常に残念だった。しかし僅かずつではあったが原資料にあたっての研究が再開することができたのは極めて有意義であった。なお、入手した近衛家熙自筆短冊は家熙の家集の補完及び書の資料として、また一條忠良自筆懷紙は書道大師流の資料として非常に有効なものであった。 来年度以降も引き続き研究を進め、本年度得た上記の知見や仮説、資料をまとめて近いうちに論文にまとめたいと考えている。 Research on waka by lehisa Konoe at Yomei Bunko, a public interest incorporated foundation, has resumed for the first time in four years. This year's investigation revealed that lehisa Konoe's waka poems are related to Emperor Reigen. I found out that lehisa's calligraphy style was used differently depending on the time and situation.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2023000010-20230237

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2023年度 学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	横浜初等部	職名	教諭	補助額	300千円 (A)
	氏名	緑川 明憲	氏名（英語）	MIDORIKAWA Akinori		
研究課題（日本語）						
近衛家第22代当主・近衛家久を中心とする、江戸中期の和歌及び文化史の研究						
研究課題（英訳）						
Research on waka and cultural history of the mid-Edo period, focusing on KONOE lehisa, the 22nd head of the KONOE family.						
1. 研究成果実績の概要						
コロナ禍により長い中断を余儀なくされていたが、約4年ぶりに公益財団法人 陽明文庫での現地調査が可能となった。調査再開によって、陽明文庫の所蔵にかかる未公開資料、近衛家久自筆の和歌資料『家久公御詠草』を1点ずつ取り上げて撮影、及び翻刻を行った。今年度は主に享保前期（1720年代）に詠まれた和歌群であったが、霊元院（天皇）からの添削が数多く含まれていることが確認できた。従来の研究では、霊元院と近衛家3代（基熙・家熙・家久）とは政治的に対立しており、従って、和歌の添削を通じた師弟関係も存在しないと考えられていたが、今回の調査で少なくとも家久に関しては霊元院と和歌の師弟関係があり、院主宰の朝廷歌壇との結びつきも一定程度認められた。一方で、家熙の藤原時代風の書風（いわゆる「豫楽院流」）の家久への継承問題に関しては、全部の資料に目を通していないため即断はできないものの、調査の範囲では、恐らくは公的（ないし外部の人間の目に触れ得る）書に関しては父親（家熙）と極めて近似した書を書いていた一方、人目に触れないメモ・備忘録的な性格を持つ書に関しては、全く独自の書風を用いているらしいことが判明した。つまり、豫楽院流を継承してはいるが、それを日常的に用いていたわけではなく、時と場合によって書き分けていたという仮説を構築することができた。 本年度の調査は先方の都合や自身のコロナ罹患もあって、毎月欠かさず陽明文庫へお邪魔することが叶わなかったのは非常に残念だった。しかし僅かずつではあったが原資料にあたっての研究が再開することができたのは極めて有意義であった。なお、入手した近衛家熙自筆短冊は家熙の家集の補完及び書の資料として、また一條忠良自筆懷紙は書道大師流の資料として非常に有効なものであった。 来年度以降も引き続き研究を進め、本年度得た上記の知見や仮説、資料をまとめて近いうちに論文にまとめたいと考えている。						
2. 研究成果実績の概要（英訳）						
Research on waka by lehisa Konoe at Yomei Bunko, a public interest incorporated foundation, has resumed for the first time in four years.This year's investigation revealed that lehisa Konoe's waka poems are related to Emperor Reigen.I found out that lehisa's calligraphy style was used differently depending on the time and situation.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			